

for
adult
only



seven
teen
color vol.2

週末の夕方、今日の体育の授業で着た体操服を着て欲しいとコウタにせがまれて着替えたなつきは、少し恥ずかしそうにコウタの部屋に入る。二人きりの部屋で見つめあう二人、週末の淫らな夜を待ち焦がれた二人は、吸い寄せられるように抱きしめ合う……

コウタはなつきの胸元に顔をうずめ、オッパイの感触を感じながら体操の姿み付いた体操服の匂いを肺一杯に吸い込む。

コウタの息で温められるほど濃くなっていくなつきの匂い。その匂いを嗅ぐコウタは、ガマン汁がにじんで破裂しそうな股間部をまるで盛りつけた犬のようにブルマをはいたなつきの股間にすり付ける……

なつきは、自分の体に夢中になってるコウタの顔を両手で強引に自分の方に向ける。

ハアハアとあえぐコウタを。

なつきは潤んだ熱い視線でじっと見つめ。

荒い息使いで、コウタの腰の振りにあわせるように自らも腰を振る。そして、コウタの唇を奪い、激しく舌を絡めながら床に押し倒す。



くちゅ

くちゅ

くちゅ

濃厚なディープキスの後
引き寄せられるように体勢を変えると
きつく密着しながら
お互い股間をまさぐり合う

今日二日の味がこびりついたチ●ポを
隅々まで念入りに味わうなつき

コウタはイキそうになるのをこらえながら
なつきの股間に顔をうずめる
湿度の変化が鼻先に伝わってくる

コウタの息が触れるたび
なつきの体はビクッと反応して
股間の湿り気が増し
唇の締め付けがキツくなつてゆく……

「なつき……ああ……だ……出……る……う……」

はあ
はあ

はあ……
す……

コウタのザイメンを口で受け止めずべて飲み干すと
押し倒したコウタの上にまたがる

果てたコウタの表情を物欲しそうに見つめるなつきは
ブルマの股部分をめくりマ●コを露出させると
イッタばかりの敏感なチ●ポに押し当て
腰を前後させ始める
こそばゆさと気持ちよさに体をよじるコウタ
「なつき…ちよっと…まっ…ああ…」

なつき

なつき

開えるコウタを気持ちよさそうに見つめるなつき
「ダメ…こーちゃんのHな顔…もっと思わせて…」
息づかいと腰の動きが次第に早くなってゆく

「ヌチユツ ヌチユツ」っと溜った音を立てるマ●コ
物欲しそうに表情のなつきは
腰を動かす流れで股口にベニスをあてがうと
ゆっくりと腰をおろしてゆく…

74₂

74₂

なつき

なつき
なつき



一週間の溜まった気持ちをぶつけるように激しく腰を上下させるなつき
攻め立てられ、激しい息づかいと喘ぎ声で体を硬直させるコウタ
部屋中に「グヂュッ グヂュッ」と卑猥な音がリズムミカルに響き
熱く火照った二人の体から立ちのぼる汗の匂いや膣臭
生臭いザーメンの匂い、うっすらと立ち込める女性の匂い
それぞれが交じり合い濃厚な空気が部屋中に漂う

汗まみれになりながらSEXに没頭する二人
攻めるなつきと攻められるコウタは
姿勢が乱れてもしっかりと見つめあう
体の密着していない部分を少しでも補うかのように……



こーちゃん

けき

あ
こーちゃん

あ

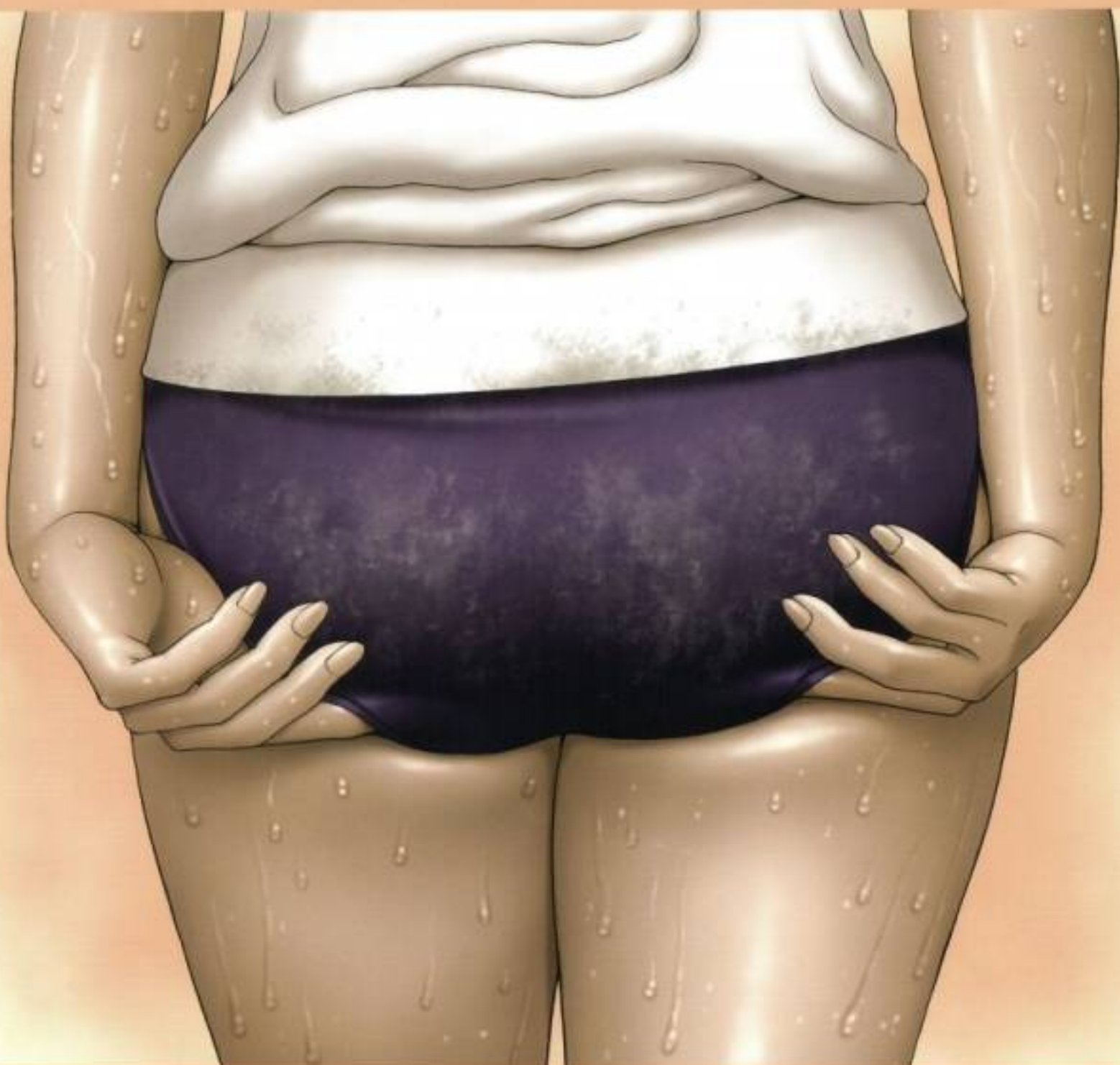
あ

あ



ベッドで、つながったまま見つめ合う二人
「おなか減ったね…さて晩ごはんどうしようかなあ！」
「うん…そうだな！」
ゆっくりと腰を動かしながら食べたい物を考えているコウタ
「こーちゃんダメ」腰動かしちゃ「またじたくになっちゃうよ」
腰の動きにまた体が反応し始めるなつき
「ゴメン…止まらなくて…」
また元を取り戻し始めたコウタは
またなつきの上に覆いかぶさる
「こーちゃん もうダメだったば…あ…」

セブンティーンカラー
seventeen color vol.2



■発効日 2011.10
■印刷所 コーレン出版

■発行/著者
甘酒鳩商店 養酒オへべ
<http://amahato.sakura.ne.jp>
otayori@amahato-m.sakomo.ne.jp

※18歳未満の方の購入、閲覧を禁じます。
※本書の無断転載、複製、上映、放送を禁じます。

for
adult
only



セブーンティーンカラー

seventeen
color
3

「練習用の水着を買ってきたから試着してね」って言われて。。。着てみたけど
なつきの水着姿を見たら、ムラムムしてきちゃって。。。マズイと思っって顔を上げると
なつきがコッ子見て、いたずらっ子みたくニヤリとした
自分の考えてること全部見透かされてるのが分かった瞬間
全身がカリーッと熱くなつてきてムチャクチャ恥ずかしくて
顔を背けていると、俺の耳元で
「どんな事思っ浮かんじやったの？」
と囁かれて、頭の中は真っ白になった。。。。

なつきは俺を押し倒すと
俺の体に自分の体を押しあてて
真っ赤な顔の俺を少し意地悪そうに
微笑みながら見つめる
「な。。なつき。。こっちは見んなよ。。。」
「ヤダ。。今日はこっちゃんの恥ずかしがってる顔
見たくなっちゃったんだもん」
なつきの体の感触は気持ちいいけど
いつものように気持ち良さを素直に表に出せなくて。。
でも、俺の体は自分の気持ちとは関係なく興奮して。。。
なつきは俺をじっと見つめたまま、俺の顔の上にまたがる
目の前にあるなつきのマ●コ
いい匂いにして今すぐにも返りたいけど、そんなに見つめられると。。
二股の躊躇すら見透かされたような気がして、もう
訳が分からなくなつて視線から隠れるように
なつきの股間に顔をうすめ、しゃぶりたい



①目の体勢でお互い眺めあつた後
なつきは俺の前を離れ、足でチ●ポをじりかきはじめた

「……………ち●ポの足で踏まれると俺の顔もロクにはたさな」

「……………そんならと書つひなな」

「集めてるんだな……………ほむ、コノチ足す……………」

「な……………な……………ももも脚で……………」



うれしそつちちちちを見ながら、俺のチ●ポをじりかきつてるなつき
しかも普段家で見ることのない水着を着ている非日常的な姿が
す……………や……………で
だんだん思はれてる……………となんか気に入らなくなつてへる……………

チ●ポをこすり上げるスピードがだんだん増してくる

「あ……………あああ……………な…………………………出る……………」

くちゅ

くちゅ

くちゅ

なつきに手を引かれ風呂場へ行くと、なつきはシャワーを使ってチ●ホを
やさしく念入りに洗いはじめる
なつきの手の感触にたまらなくなってきた
俺はなつきを思いつきり抱きしめた
するとなつきは「あっ」と声を上げ
体がビクンと反応した後、もたれかかっていた
「なつき、大丈夫？」
「……うん、大丈夫だよ……」
そういつて俺を睨んだ瞳で見つめるなつきは
唇を押し出でて、強引に舌をねじ込んでくる
そして二人でグチヨグチヨのディープキスをしながら
体をまさぐりあった……

はあ、
はあ、

はあ、

はあ、
はあ、
はあ、



来

ズッ

ズッ

「俺、お前と一緒にプール通う自信なくなってきた・・・」
「じゃあ、こーちゃんがムラムラしたときはプールでしちゃおう」
「バ・バカっ！何言ってるんだっ！そんな事出来るわけないだろっ」
「トイレとかシャワー室に隠れちゃえば出来るんじゃない？」
「・・・お前本気か？」
「さあ、どうでしょう？」（ニコッ）」

（なつきが言うと冗談なんだが本気なんだが全然わからん・・・）



はは

はは

ぶちゅ

ぶちゅ

びゅ

びゅ

セブンティーンカラー

seventeen color vol.3



■発行日 2012.03
■印刷所 コーシン出版

■発行/著者
甘酒鳩商店 養酒オへべ
<http://amahato.sakura.ne.jp>
otayori@amaha@q-m.aunomo.ne.jp

※18歳未満の方の購入、閲覧を禁じます。
※本書の無断転載、複製、上映、放送を禁じます。